

くない いなりじんじゃ 区内の稲荷神社

江戸川区内には稲荷神社が10社存在し、その数は天祖神社、香取神社に次ぎます。

祭神は豊受姫神とよけひめのかみか宇迦之御魂神うかのみたまのかみ(倉稲魂命うがのみたまのみことともいう)で、「稲生りいねな」が転じて「イナリ」となったといわれ、穀物・食物の神様であり、また農業・漁業・商業の神様としても信仰されています。

稲荷神社は日本で一番数の多い神社で、その数は3万社以上とも言われています。総本社は京都の伏見稲荷大社ふしみいなりたいしゃで、江戸時代には江戸城下を含め、東日本にも数多く勧請かんじょうされました。文政13年(1830)までに編纂された地誌ぶんせい しんべんむさしふどきこう『新編武蔵風土記稿』の江戸川区域内の記述には、162社の神社が載っています。そのうち30社は稲荷社で、江戸川区域でも最も多い神社でした。

旧宇喜田村うきたや旧船堀村ふなぼり西組など、江戸時代の初めに新田開発された地域では、五穀豊穰ごこくほうじょうを祈願して勧請され、村や組ちんじゅの鎮守となった稲荷神社があります。

『新編武蔵風土記稿』

記載の区内の主な神社

()は合社を含む数

稲荷社	30 (34)
神明社 (現・天祖神社)	15 (24)
八幡社	12 (21)
山王社	12 (13)
香取社	11 (17)
第六天社	7 (7)
水神社	7 (7)
以下省略	総数は 162 社



稲荷神社(通称「宇喜田稲荷」北葛西四丁目)



稲荷神社(通称「赤稲荷」松江一丁目)

江戸川区郷土資料室

地域の小さなお稲荷さま

東西の旧小松川村や旧長島村などでは、旧家の^{やしきがみ}屋敷神や一族の氏神として、小さな稲荷社が数多くあり、現在も地区ごとに^{こう}講を作って隣近所でお祀りしています。たとえば旧西小松川村の^{とうがしま}道ヶ島と^{ごぶいち}五分一の地区には、「^{はんとみ}半富稲荷」など人名や屋号で呼ぶ稲荷社、御利益にちなむ「^{めはれ}目晴稲荷」など「お稲荷さん」として親しまれています。そして各「稲荷講」が行う2月の^{はつうま}初午の行事は、地域の住民に親しまれてきました。



「半富稲荷」(松島一丁目)



「目晴稲荷」(松島二丁目個人宅内)

江戸川区内の主な稲荷神社

所在地	祭神	通称・創建・いわれなど
東小岩5-11	倉稲魂命	文久2年(1862)創立。合殿は日本武命を祀る大鷲神社(お酉さま)
西小松川町16-1	宇迦御魂神	「小野原稲荷」。創建は不詳、小野原耕地の五穀豊穡を祈願。
松江1-1	宇迦能魂命	「赤稲荷」。東小松川新道守護神。庚申塔(区文化財)あり。
船堀1-1	豊受姫神	旧船堀西組鎮守。開拓7戸の家が元禄4年(1691)五穀豊穡を祈願し勧請。大正8年(1919)荒川開削で遷座。現在は船堀西児童遊園内に移築。
江戸川5-28	豊受姫神	宝永4年(1707)創建。下今井村香取社摂社。旧熊野神社社殿を移築。
北葛西1-16	宇迦之御魂神	通称「豊榮稲荷」。元禄3年(1690)創建。八幡神を合祀。
北葛西4-24	豊受姫神	通称「宇喜田稲荷」。旧宇喜田村鎮守。新田開発に伴い、寛永20年(1643)創建と伝う。「力石」「乾海苔創業記念碑」あり。
東葛西2-35	豊受姫之神	通称「馬場稲荷」「大当稲荷」ともいう。三百年前創建と伝わるが、詳細不詳。長島の香取神社の境外摂社。
東葛西6-24	豊宇気比売神	寛永年間、15戸の住民が勧請。社地は「女森」といわれた。
中葛西5-28	豊宇気比売神	通称「十五面さま」。創建は不詳。境内地は氏子S氏の寄進。

参考文献：『東京都神社名鑑』東京都神社庁 昭和61年(1986)刊、『江戸川区史』第3巻

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)